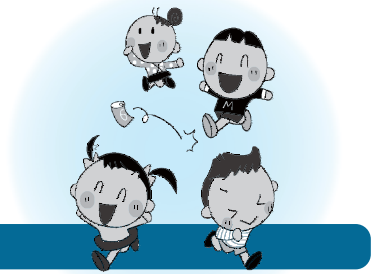


# こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.77



## 偏見と怨（おもいやり）

根拠のない、偏った捉え方や悪いイメージを持つことは「偏見」です。

偏見の厄介なところは、新しい情報が入ってもそのイメージなどが、簡単には変わらないところにあります。

例えば、一度、「○○人は怠け者」と思っている人は、働き者の○○人と出会っても、自分の思い込みをなかなか変えようとしません。

また、「偏見」というのは確かに人の心の中のことですが、それはどこかで、言葉や行動にあらわれる場合が多くあります。偏見がどのように姿をあらわすか、心理学者のG・W・オルポートは、自書「偏見の心理」の中で次のように説明しています。

一番目は、「誹謗」「中傷」つまり『悪口』です。偏見は、まず悪口として姿をあらわします。

二番目は「回避」『避ける』『寄り付かない』『かわらないようにする』という段階です。

三番目は、「排除」『避けるよりもさらに積極的に』『のけ者にする』という段階です。

四番目は、「攻撃」『相手に直接的なダメージを与える』『暴力』の段階です。

最後が、「絶滅」「抹殺」『殺してしまおう』『無くしてしまおう』という段階です。

世界のいたる所で、特定の民族や多くの罪なき人々などの大量虐殺が起きているのは、悲しい歴史上の事実です。

偏見をそのままにしておくことがどんなに危険なものなのか、お解りいただけただけでしょうか？

また「差別」や「いじめ」も同じ構造ではないでしょうか。これらの事をなくすためにも解りやすい教えがあります。

今から約二千五百年前、孔子は「論語」の中で、弟子の子貢が、「先生、一生涯、これをやり続ける！というべき一番価値ある大事なことはなんですか？」との問いに対し、「其れ恕乎、己の欲せざる所を、人に施すこと勿れ。」と答えています。つまり「怨（おもいやり）」「怨（おもいやり）」「自分がされて嫌なことは、相手にしないことだ」と言っています。

『人権』と言うと難しく思う方々も多くいると思います。しかし『人権』を考えると、この言葉をまず考えることによつて、自分の考えや思いを比較的安易に導くことができると思います。

文責：生涯学習課 橋本

### 第5回国東市隣保館まつり 「川柳」応募作品

日常生活出来て感謝知る

国東町 栗林 初美  
安岐町 堀 あやめ

君の顔見れば心がホツとする

## 行政区別人権学習会

～差別について「考えて」「気づいて」「実践する」～

国東市では平成20年度から4年間、統一したテーマで地区人権学習会を実施してきました。

本年度も、人権・同和問題の解決に向けて、9月から地区人権学習会を実施しています。

本年度の学習内容は「高齢者の人権と同和問題」です。平成21年度に実施しました国東市人権意識調査では、「高齢者の人権」についての関心が高い結果となっていることから、本年度の内容を決定しました。

差別のない明るい社会を築くために、一人ひとりができることを一緒に勉強しましょう。



皆様のご参加をお待ちしています。

### お知らせ

☆同和問題学習会（隣保館）

10月25日（木）午後2時

問い合わせ 国東市隣保館

☎0978-68-1722